

刹那的抽象表現における格子欠陥

舞踏家^A・ヴィジョンアーキテクト^B・写真家^C

石井則仁^A・荒谷健道^B・熊谷真希子^C

Butoh Dancer^A・Vision Architect^B・Photographer^C

Norihito Ishii^A・Takemichi Araya^B・Makiko Kumagai^C



踊りは数字やグラフではなかなか表せなく、踊ったときの感情や質感・質量は一瞬にして消えてしまうもの。その踊りで何ができ、どう表現するのか。
まずは「格子欠陥とは何か」、東京大学生産技術研究所の溝口照康氏よりお話を聞き、作品制作に取り組む。

着目したことは「 $\Delta G = \Delta H - T\Delta S$ 」・「エントロピー増大」・「内挿と外挿」、そして溝口照康氏が研究で使っている「AI」である。

身体というエネルギーが増大して行くこと。明確なイメージを基に踊っていても、表出される表現は抽象的であり、客観的に記録/記憶できても観る側の見た瞬間の感情や想起するイメージは、コミュニケーションを介さない限り共有は難しい。

私は芸術は0を1にできるものであると信じている。

この映像作品を通して、皆さんに「外挿」を提示できたら幸いである。

本発表内容にあたり、無知な私にご教授いただいた溝口照康氏、快く協力してくれたヴィジョンアーキテクトの荒谷健道氏・写真家の熊谷真希子氏・楽曲提供してくれた音楽家の石川智久氏に深く感謝する。